

エゾシカは着生シダも食べる！？

江別市 大沼 弘樹

2019年9月15日に、千歳市西部の山林を歩いてみました。北海道にも強風被害をもたらした2018年台風21号が、着生シダにどのような影響を及ぼしたのかを確認するためです。本当は、台風直後に観察できればよかったのですが、慌ただしく過ごしているうちに、すっかり1年が経過してしまいました。

ミズナラやシナノキ、ハルニレ、イタヤカエデなどの大径木が立ち並ぶ森を歩くと、林床のミヤコザサの茂みの至る所に、直径50cm以上はあろうかという太い横枝が転がっていました。

落ちた太枝の半数程度には、マット状に根を張った着生シダ類が張り付いていて、イワオモダカやホテイシダ、オシャグジデ

ンダが多く、時折ミヤマノキシノブも見られました。落下してから丸一年を経過しても、まだ元気に育っている様子を見てみると、今後も数年程度は生きながらえる可能性が高そうに思いましたが、やがて木が朽ちると同時に消失してしまうのでしょうか。2004年の台風18号による暴風では、野幌森林公園でも同じ種組成の着生シダが数多く落下しましたが、積雪下では越冬が困難なのか、翌年以降にはイワオモダカなどの衰弱が目立っていたことは対照的です（筆者観察による、未発表）。野幌森林公園よりも太平洋側に近い千歳では、積雪の少なさが、落下した着生シダの生残に有利に働いたのかもしれませんが。

話は千歳に戻りますが、落下した多数の



図1 エゾシカに採食されたホテイシダ

着生シダを撮影していると、奇妙な事に気が付きました。落枝上のホテイシダやイワオモダカのうち、個体数の2～3割程度の葉が、噛みちぎられていたのです。噛みちぎられた葉は、1枚ずつではなく、数枚～十数枚がまとまっており、切り口が擦り切ったような形状で、エゾシカによる食痕と思われました。普段はエゾシカの口が届かない樹上にある植物とはいえ、着生シダ類を食べることは意外でした。しかも、夏緑性のホテイシダの葉が食べられているという事は、餌が乏しい冬場ではなく、夏場の展葉後に採食されたことを意味していま

す。好んで食べたのかどうかは分かりませんが、観察した個体数に占める食べられた割合から考えると、特に忌避しているわけでは無さそうです。

エゾシカにとっては、たまたま見慣れない草を摘み食いしただけなのでしょう。それとも、「まあまあ美味しいな」等と思いつつ、新しい食料を探索していたのでしょうか。真相はエゾシカ達にしか分かりませんが、台風がもたらした小さな発見でした。

(北海道医療大学薬学部附属薬用植物園)